

令和元年度沖縄総合事務局 国営土地改良事業等再評価技術検討会（第2回） 議事録

1. 日 時：令和元年7月8日（月） 開会 10時00分 閉会 12時00分

2. 場 所：沖縄総合事務局2階 D・E会議室

3. 出席者：（技術検討会）

委 員 井 口 千 秋 井口税理士・行政書士事務所所長
" 今 井 秀 行 国立大学法人琉球大学理学部准教授
" 内 藤 重 之 国立大学法人琉球大学農学部教授
" 吉 永 安 俊 国立大学法人琉球大学名誉教授

（五十音順、敬称略）

（国営事業管理委員会）

委員長 田中 晋太郎	沖縄総合事務局農林水産部	部長
委 員 垣 花 直	"	総務調整官
" 高 橋 史 彦	"	農政課長
" 濱 井 和 博	"	農村振興課長
幹 事 森 戸 祐 紀	"	農政課課長補佐（企画）
" 我如古 春樹	"	農村振興課課長補佐（計画）
" 今別府 純一	"	農村振興課課長補佐（整備）
" 飯 野 秀 之	"	企画指導官（経済資源）
事務局 新 川 哲	"	水利整備係長

（宮古伊良部農業水利事業所）

平 良 和 史 所長
鈴 木 智 也 調査設計課長
久 貝 一 文 環境調査専門官

4. 議事概要：

開会

○吉永座長 前回同様、座長をお引受けする。委員の皆様御協力をよろしくお願ひしたい。

それでは議事次第に従って進めていく。

議事の1. 「技術検討会（第1回）における指摘事項の対応について」事務局より説明をお願ひする。

○飯野企画指導官 資料に基づき説明させていただく。

＜説明資料1を説明＞

○飯野企画指導官 引き続いて、技術検討会（第1回）後に吉永座長より、改めて事業の効用に関する説明の要望があったので、資料1－②及び資料1－③を用いて簡潔に説明させていただく。

＜資料1－②及び資料1－③を説明＞

○吉永座長 只今の説明に対して、また新たな意見等あればお願いしたい。

○吉永座長 まず、私の方から一つ確認だが、資料1－③の40Pのさとうきびの増収率については、夏植・春植・株出によって異なると思うが、全て50%増で扱っている。根拠はあるか。

○飯野企画指導官 増収率については、沖縄県の農業試験場宮古支場（現農業研究センター宮古支所）で行った試験結果から算出している。

○吉永座長 資料1－②の19Pと23Pで、さとうきびの作型によって純益率が異なっているのはなぜか。

○飯野企画指導官 畑かん施設の整備済の箇所と未整備箇所で単収や生産費等が異なるため、純益率が異なっている。

○井口委員 資料1－③の45Pの年総効果額の割合は、何を示しているのか。

○飯野企画指導官 作物生産効果等の各効果項目の金額が年効果額全体に対し、どれくらいの割合であるかを示している。

○内藤委員 宮古島の耕地面積は増えていないとのことであったが、資料1－③の40Pの現況と計画を比べた資料では、宮古島でも伊良部島でも現況より計画が増えているのはなぜか。

○飯野企画指導官 計画上野菜のように年に複数回作付けしているものがあり、作付け延べ面積で記載しているためである。

○今井委員 資料1－②の6P「（5）景観・環境保全効果」に記載されている「対象施設（環境保全施設）」とは、何を指しているのか。

○飯野企画指導官 地下ダム等の農業水利施設である。

○内藤委員 営農経費節減効果について、資料1－③の41Pと42Pの違いは何か。

○飯野企画指導官 41Pは、畑地かんがいによりかん水作業等の効率化が図られ、労働時間や機械経費が節減される効果である。42Pは、区画整理により主に人力作業から農業機械化作業等に変わり、その分に係る労働時間や機械経費が節減される効果である。

○内藤委員 41 Pのさとうきび夏植と株出とで計画の効果額が異なっているのはなぜか。

○飯野企画指導官 夏植と春植・株出で、干ばつ時を含めたかん水の多少により営農経費の節減額に差が出ている。

○内藤委員 夏植と株出の現況が同じになっているが、夏植は2年1作で株出は1年1作であるので、本来は同じではないと思われるが。

○飯野企画指導官 現況では十分なかん水ができない状況のため、使用できる水量も限られてくるということもあり、かん水回数及び時間を同程度としている。なお、再評価では、当初計画において用いた数値等を基に検討し、当初から大幅に変わっているものは数値の差し替えを行う場合があるが、大幅に変わっていなければ当初用いた数値を時点修正して使うなど算定に当たって精緻には行わないこととしている。

○井口委員 資料1－②の9 P「総費用の総括」の表の⑤（評価期間終了時点の資産価額）は何か。

○飯野企画指導官 評価期間終了時（工事期間＋40年）における施設のトータルコストから、施設減価償却分を差し引いた残存価値を表したものである。

○今井委員 資料1－③の48 Pで、仲地副貯水池は、他のファームポンド等と異なった屋根のないような施設になっているが、どうしてこのような貯水池形式になっているのか。この方が安価なのか。

○鈴木調査設計課長 仲地副貯水池は、ファームポンドのように水源から水をポンプアップして貯水するものとは機能が異なり、周辺から水を集水して貯水する水源としての施設である。従って、水を集水しやすい窪地となっている地形に建設し、コストを縮減する計画となっている。

○具志委員 資料1－③の24 Pの「農地中間管理機構」とは、どのようなものか。

○濱井農村振興課長 「人・農地プラン」は集落の方々の話合いにより、地域の中心となる担い手を選定するのに対し、農地中間管理機構は県の組織で、個人では難しい農地の売買や貸し借りを農地中間管理機構が間に入って、新規就農者等と調整する組織である。

○具志委員 このような組織の仕組みを県民はどのようにして知ることができるのか。

○高橋農政課長 農家の方々に対しては、国・県・市等からPRしている。その他、JAの広報誌等や農家の集会等でもPRを行っている。

○今井委員 資料1－③の49P「③海岸環境の保全等」に用水路の道路下埋設が記載されているが、用水路の道路下埋設が海岸環境の保全にどのようなつながるのか。

○鈴木調査設計課長 海岸環境の保全に直接つながる訳ではないが、海岸環境の保全等の「等」に含めて記載している。誤解を招く可能性があるので文言を修正する。

○吉永座長 議事1における意見はもうないようなので、これから技術検討会意見の取りまとめに入りたい。

＜委員による技術検討会の意見の取りまとめ＞

○吉永座長 それでは、「技術検討会の意見」がまとまったため、事務局から読み上げていただきたい。

＜技術検討会の意見を読み上げ＞

○吉永座長 それでは進行を事務局にお返しする。

閉会